

た。淺井殿役の時利長は三堂山から此の馬に乗つて進軍したが、其の後加藤清正の所望によつて之を興へた。

ワタリゾメ 渡初 藩政の時淺野川大橋架替の時には渡初の儀式があつたことは、元祿元年の町奉行詮議書に、『淺野川橋先年懸置り候時分、渡初之様子相尋候處、森下町寶金鍛冶九郎兵衛と申者相勤申由に御座候。』と見えるが、葛巻昌興自記に、『元祿元年十月七日淺野川橋落成之旨、橋架奉行高田久兵衛・近藤三郎左衛門言上。今日達御聽。此橋之事渡初と云儀有之由に候へ共、其例不慥に付、今度無其儀、此旨老中より言上也。』とあつて、此の時から淺野川大橋の渡初は止んだ如くに見える。犀川大橋の事は菅家見聞集に、『寛文元年五月朔日犀川大橋成就渡初。』と見える。道路の付替などにも渡初があつたことは、佐那武社留記に、『元和年中宮腰道付替る時、郡奉行瀧與右衛門差圖に而、白山神主有安と云者先道す。渡初は宮腰唐仁屋七右衛門親子十二人勤之。』とある。橋梁の渡初は廢藩の後兩大橋に之を行ひ、後その他にも及んだ。

ワタリドリ 渡り鳥 稿本一冊。金澤の俳人珈涼尼が、越中に吟行した時の紀行で、『踏わけて露のけあけやわたり鳥』以下の句と文とを載せる。

ワドウジ 和銅寺 羽咋郡寶達山麓の上田に在つた。當山派の山伏で、本尊は正八幡宮を安置してあつた。

ワニザキ 鰐崎 ワニ 珠洲郡馬縹の内の小字。その部落から北方に斗出する岬も、同名を以て呼ばれる。

ワニベノオミ 丸部臣 天平三年の越前國

正税帳に、加賀郡主帳先位丸部臣人麻呂があり、文德實錄齊衡元年に加賀國節婦和通部廣刀自女がある。丸部の和通部と訓むべきは、天武紀に和弭部臣君手とあるを、續紀には丸部臣と書かれて居るによつて知られると、古事記傳に記される。孝昭紀に『天足彦國押人命。此和弭臣祖也。』といひ、姓氏錄に『和通部。天足彦國押人命三世孫彦國命之後也。』ともあるから、臣の姓を有するも有せざるも、部字のあるもなきも、共に同祖から出たのであらう。

ワニベヒロトジメ 和通部廣刀自女 加賀國の節婦。文德實錄仁壽四年五月廿六日の條に、廣刀自女年十四で山城の人秦眞勝に嫁したが、眞勝の亡後その家側に侍し、今に至るまで三十餘年故夫を追慕して已まぬを以て、爵二級を賜うたことが見える。

ワラゴウシ 藁盆子 一冊。津幡の俳人我柳の著。自序に弘化丙午の春我柳とあり、跋は景雲。著者の師梅室を初め、俳友の句を集めたもの。金城集雅堂石立文二板。

ワラトチ 藁とち 一冊。石丸龍石編。諸家の發句を式紙短冊形に模刻してある。安永六年ひつじの春卓丈序。現存の本書には乙とあるから、尙甲編もあつたのであらう。板元不明。

ワラビノ 蕨野 鳳至郡大屋庄に屬する部落。
ワラビノガハ 蕨野川 鳳至郡蕨野の神田より發し、北流して光浦に至つて海に注ぐ。
ワランツノミネ 藁履ノ峰 白山の尾添口舊登路中、檜新宮のあつた所をいふ。白山記に天池室戸のことを叙した次に、『坂下有ニ

一岳。名ニ藁履御峰。上道ニ進ニ藁履。有ニ小社。安ニ多門天。』とある。

ワリダシ 割出 石川郡鞍月庄に屬する部落。實永誌に、この村領に館といふ所があり、昔高桑備後住した所であると記し、三州名跡志に之を畠の館、加賀古跡考には館山としてゐる。又實永誌に、この村の金剛坊畠は金剛坊といふ寺院のあつた所であると載せる。

ワリバ 割場 加賀藩の足輕には、大組足輕・持筒足輕・持弓足輕・先筒足輕・先弓足輕・開番組足輕・留守組足輕等の種類があつたが、是等各部屬の外に多數の足輕があつて、諸役所の胥吏として配置せられてゐた。その人員名籍を管轄する所が割場であり、その長を割場奉行といふた。割場とは配下の足輕を各所に分配するの意であり、その役所は金澤城西町口門内の東方に在つた。

ワリオオヨコメ 割場御横目 割場は古い名目であるから、此の職も亦替の最初からあつたものであらう。割場御横目の姓名の明らかなのは、元祿十年に小倉長太夫・山森又八郎兩人、その死後實永七年吉田藤兵衛・和田吉郎兵衛兩人が命ぜられたに初り、以後連續續した。

ワリバツキアシガル 割場附足輕 割場の所管で、各役所に配屬せられる足輕をいふ。前田利常の頃には、小頭・平足輕共に切米廿九俵を受け、小頭は加州米、平は越中で給せられたが、その後小頭に六俵、平に二俵を増して凡べて越中米とし、延寶三年から小頭三十俵・平二十俵となつて後世の規模となつた。組数は貞享三年から五十組に別れてゐた。

ワリバドウクワタシブギヨウ 割場道具渡

奉行 延寶年中秋元平八の命ぜられたのがその初であらう。實永七年には寺内木曾右衛門、正徳五年には遠田伊八郎が命ぜられ、寛保以降には全く二人役となつた。

ワリバブギヨウ 割場奉行 加賀藩に於ける割場の名目は、前田利家が越前府中に居た頃から夙く見える故に、割場奉行も亦古くあつたであらうが、その姓名の傳へられる初は、承應三年六月廿六日齋藤長兵衛・久世平助の命ぜられた時に在る。次いで寛文中山口彌五兵衛・中村七右衛門、延寶五年前田瀨兵衛・神戶内右衛門・渡邊藤左衛門があり、爾後連續した。

ワリバマチ 割場町 金澤の舊町名。藩政中割場附足輕の組地であつた。明治四年四月戸籍編成の時、この名稱を廢して石坂角場に屬せしめた。

キ

キイリノジンジ 居入神事 江沼郡敷地村菅生石部神社では、舊六月六日・十一月五日に居入神事があつた。古くは四月五日・十一月五日とも見える。社記に、『往昔居入神事は勅使參向御衣神寶御調進在之。臨時にも御衣神寶を奉らる。延喜十年加賀國可爲調進之宣下有之。其文延喜式に見ゆ。文永年中調進御催促に付、即大廳所之陳狀一通令猶有之。』と記される。石川郡白山比咩神社でも四月・十一月の午日に居入神事を行つた。

キイリノジンジコウ 居入神事考 一冊。

居入神事考 一冊。